

四月二十九日、西川（理学部長）は北京郊外にある中国科学院高能物理研究所を訪問し、電子・陽電子対衝突実験用加速器並びにその加速器を利用した物性研究の現状を視察した。同研究所は、わが国の高エネルギー物理学研究所のミニ版という感じで、研究活動は極めて活発であった。本学の放射光

科学研究グループとは直ぐにでも研究交流ができるという感触を得た。

#### 南開大学諸施設の視察

四月二十七日、佐々木工学部長、近藤教授、西川は南開大学の測定機器センター、元素有機化学研究所を視察した。前者は未だ整備途

上との感であったが、後者は歴史も古く、立派な近代的設備を整えており、外国の研究者も共同研究に参加して研究成果を挙げている印象を得た。特に、中国古来から知られている薬品に関する分析研究が個性的な研究として注目された。（西川記）

## 中国科学院及び南開大学との

### 学術交流協定の調印を終えて

広島大学長 田 中 隆 荘

この度、広島大学が中国科学院及び南開大学（天津市）の両機関と国際交流協定を締結できたことは、本学の国際性の展開においてのみでなく、教育面及び学術面からも極めて意義深いことであり、心から喜びとするところであります。

この交流協定の締結によって、両機関との友好の絆を強化し、教育と学術を協力して推進すること

は、多様な可能性をひき出し、極めて意義があると認められます。協定の意義を具体化することは努力を要することであり、協定の精神を生かし、相手機関の優れた点を学び、協力し、補完しながら共に前進することが、協定締結を真に意義あるものにすると考ええます。

不可能な各種類の資料類の蓄積があります。日本と中国との深い自然的関係と長い文化的関係を考えるとき、教育面でも学術面でも魅力豊かなものがあると確信しております。

広島大学の多くの学部等で交流が展開されることを願って止みません。

## 国際化の新しい波

広島大学事務局長 野 口 順 啓

本学ではこれまで六件の大学間協定と一四件の学部間協定が締結され、今新たに隣国の二機関と大学間協定が締結されました。

これを機会に私たち事務系職員同士の交流実現に向け、次の段階へ一步を踏み出さなければならぬと感じました。相手機関からも相互交流の熱い期待の眼ざしが向けられております。

国際交流の活発化は、今日目ざましいものがあります。国際交流協定の締結、研究者交流の増加、外国人留学生の急増など、その例は枚挙にいとまがありません。

さきごろ公表された大学審議会の答申「大学院の整備充実」は、教員組織、施設整備等を大学院固有のものとして整備していく必要性を強調しています。文部省は、これを受けて、大学院の整備を今後の文教施策の最重要課題と認識しております。

しかしながら、私たち大学行政に携わる事務系職員の国際化、国際交流は、残念ながら活発に展開されているとは言いがたいのが現状です。

国際交流は、大学院の研究・教育の進展と不可分のものであり、大学の研究教育を支援する事務組織も、今後はこの方向で見直し、再構成する流れを速めてゆかなければならないと考えております。

中国科学院、南開大学との交流協定調印式に広島大学訪中団員として参加し、両機関の関係者と懇談する機会を得て、改めて事務系職員の国際化・国際交流の推進が重要であると痛感すると共に、